

## 「愛・地球の環音楽祭」の概要

### 1 開催日時

2005年9月13日(火) 14:00~17:00(予定)

### 2 場 所

愛知万博長久手会場 EXPOドーム

### 3 主 催

愛知県、岡崎市、豊田市、瀬戸市、春日井市、愛環音楽連盟、中部日本放送(CBC)

### 4 内 容

#### 【第1部 愛のあいさつ】

- 内容：オーケストラ、合唱、千住真理子(ヴァイオリン)といった様々な組み合わせによる華やかなステージ。耳なじみのあるクラシックの名曲の数々を生演奏により楽しんでいただく。
- 出演：愛環音楽連盟加盟オーケストラ・合唱団(以下「愛環オーケストラ・合唱団」とする)、千住真理子(ヴァイオリン)
- 指揮：初山和明
- 曲目(予定)：

オッフエンバック	：「天国と地獄」序曲からギャロップ(オーケストラ)
エルガー	：「愛のあいさつ」(オーケストラ、千住真理子)
モンティ	：「チャルダースュ」(オーケストラ、千住真理子)
シベリウス	：交響詩「フィンランディア」(オーケストラ、合唱)
エルガー	：行進曲「威風堂々」第1番(オーケストラ、合唱)

#### 【第2部 故郷への手紙】

- 内容：第1部とは雰囲気を変え、五木ひろしをゲストに迎え、愛環オーケストラ・合唱団とともに、日本の叙情、日本の心を歌い上げる。
- 出演：愛環オーケストラ・合唱団、五木ひろし(リズム・セクション8名)
- 指揮：ボブ佐久間
- 曲目：ふりむけば日本海・長良川艶歌・山河・Lovesong for you  
＜五木のステージに引き続いて愛環オーケストラ・合唱団による唱歌メドレー＞
- 「混声合唱のための唱歌メドレー ふるさとの四季」源田俊一郎 作編曲(オーケストラ版)
- 指揮：吉川朗(愛環)

#### 【第3部 歌声は世界をつなぐ】

- 内容：アマチュアの愛環オーケストラ・合唱団と海外で活躍する指揮者・ソリストが、万博の開催と成功を祝い「歓喜の歌」を盛大に歌い上げる。  
フィナーレとして会場の聴衆も合わせ全員で、なかにし礼による日本語訳詞の「歓喜の歌」の大合唱を行い、音楽祭の終局を飾る。
- 指揮：アレキサンダー・ドゥルチャー(Alexander Drcar)
- ソリスト：
  - 1) ソプラノ：アンドレア・ラング(Andrea Lang)
  - 2) アルト：ミカエラ・メーリンク(Michaela Mehring)
  - 3) テノール：ステファン・ハイバッハ(Stefan Heibach)
  - 4) バリトン：アンドレアス・ヤンコヴィッチ(Andreas Jankowitsch)
- 曲目：ベートーヴェン 交響曲第九番 第4楽章
- フィナーレ「歓喜の歌」(なかにし礼による日本語訳詞) 会場全員合唱

以上の3部構成で実施する。全体構成・台本は、新井鷗子(音楽構成作家)。

司会はCBCアナウンサー・千住真理子

## 5 座席

自由席（一部事前予約席あり）。愛・地球博公式サイト等から1ヶ月前より事前予約可能。

### 出演者等プロフィール

#### 愛環音楽連盟（あいかんおんがくれんめい）

愛知環状鉄道によって結ばれた4都市（岡崎市・豊田市・瀬戸市・春日井市）で活躍するアマチュアオーケストラと合唱団7団体で、1997年春に設立。

国内外の優れた演奏家や指揮者を招いて、技術の研鑽に努めるとともに、「音楽への愛」と「人類愛」で結ばれた「愛の環」を大切に育てながら、4都市を中心とする音楽ファンに楽しんでもらえる演奏会等を開催し、各市の音楽文化の向上に貢献してきた。

現在の加盟団体は、岡崎フィルハーモニー管弦楽団、岡崎「第九」をうたう会、豊田市民合唱団、瀬戸第九合唱団、春日井市交響楽団、春日市民第九合唱団の6団体。



#### 千住真理子（せんじゅ まりこ）



（写真提供・東芝 EMI）

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し、12歳でデビュー。

日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。

慶応義塾大学卒業後、指揮者故ジュゼッペ・シノーポリに認められ、1987年ロンドン、88年ローマデビュー。ビクターと専属契約を結び、CDは数々のヒット賞を受賞。

1986～88年NHK大型報道番組のキャスターを務め話題となる。国内外での活躍はもちろん、文化大使派遣演奏会としてブラジル、チリ、ウルグアイ等で演奏会を行う。チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。ステージ音響の研究、TV、ラジオへの出演の他、著書は98年より「高校生の国語I」に掲載されるなど執筆活動でも活躍。

1993年文化庁「芸術作品賞」、1994年度村松賞、1995年モービル音楽賞奨励賞各賞受賞。1997年、全米でもCDを発売。1999年2月、ニューヨーク・カーネギーホール of ウェイル・リサイタルホールにて、ソロ・リサイタルを開き、大成功を収める。4月よりNHK教育テレビ「ボランティアまっぷ」の司会を務める。

2000年デビュー25周年記念CDを発売。著書「聞いて、ヴァイオリンの詩」（時事通信社）を発売。NHK朝の連続テレビ小説「ほんまもん」の音楽を兄の千住明氏が担当、千住真理子が演奏し、全国で注目をあびた。

2002年夏、幻の名器とされるストラディバリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たす。2003年にはプラハ交響楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン室内管弦楽団の日本ツアーにソリストとして共演し、好評を博した。8月に東芝EMIより移籍第1弾となるCD「カウンタービレく歌うように>」を発売、「レコード芸術」10月号特選盤に選ばれる。2004年4月に第2弾の「愛の夢」を発売。秋にはスーク室内オーケストラと日本ツアーで共演。

## 指揮 初山和明 (もみやま かずあき)



東京都出身。

1968年、桐朋学園高校音楽科弦楽科入学。ヴァイオリンを故・宗倫安氏、指揮および室内楽を故・斎藤秀雄氏に師事。同年、第22回毎日学生音楽コンクール・ヴァイオリン部門にて第2位受賞。

1971年、桐朋学園大学音楽学部弦楽科および指揮副科入学。在学中、桐朋学園オーケストラを指揮すると共に、同楽団定期演奏会の指揮台に上り、学内指揮オーディションで第1位受賞。また、74年秋、同楽団のアメリカ演奏旅行に同行し、ニューヨーク・カーネギーホール他各地にて演奏する。

1975年3月、同大学卒業と同時に新日本フィルハーモニー交響楽団に指揮者として入団、小澤征爾氏の副指揮者となり活躍を始める。と共に、人気TV番組「オーケストラがやってきた」などに出演して話題となる。

1976年、チェコフィルハーモニー交響楽団の常任指揮者ズデニェク・コシュラー氏の招きで、プラハにてチェコフィル、ブラチスラヴァにてスロヴァキア歌劇場と、同氏のもとで研鑽を積む。また同年7月、シエナ（イタリア）のキジアナ音楽院において、指揮者で名教授でもあるF・フェラーラ氏から特別賞を受賞すると共に、それを祝う記念演奏会にてプラハコンセルヴァトワールオーケストラを指揮する。

1978年からBBC交響楽団の常任指揮者G・ロジェストヴェンスキー氏、およびP・ブーレーズ氏のもとで研鑽を積むため、ロンドンに在任。

1981年から新日本フィルハーモニー交響楽団の専属指揮者となる。同年10月、文化庁海外派遣指揮者に選ばれ、再びロンドンBBC交響楽団に派遣される。

1983年4月、宮城フィルハーモニー管弦楽団（現・仙台フィル）常任指揮者に就任、6年間にわたって同楽団の向上発展に尽力する。

また、85年以来毎年数回、定期的にソウルの音楽界に招かれ、ソウル市立フィルハーモニー管弦楽団、コリアン交響楽団、およびソウルアカデミーオーケストラの客演指揮者として、常に高い評価と人気を得ている。

特に、92年9月、ソウルアートセンター大ホールにおけるコリアン交響楽団定期演奏会での「英雄の生涯」（R・シュトラウス）の演奏は内外共に絶賛され、93年2月のソウル歌劇場オープニングガラコンサートのメインプログラムとして再演された。

また同年3月、同楽団とソウルにて「春の祭典」（ストラヴィンスキー）をソウルオーケストラフェスティバルのファイナルコンサートとして韓国初演し、話題を呼んだ。現在も、日韓文化交流のパイオニアとしても、高く評価されている。

1985年から、桐朋学園オーケストラの指揮者として、母校の指導にもあたっている。

## 五木ひろし (いつき ひろし)



（本名）松山数夫。1948年3月14日生まれ。福井県出身。

1964年（昭和39年）「第15回コロムビア全国歌謡コンクール」で優勝し、プロ歌手となる。

1970年（昭和45年）「全日本歌謡選手権」で10週勝ち抜き栄冠を得る。

翌1971年（昭和46年）3月1日に「五木ひろし」として「よこはま・たそがれ」を発表。この曲の大ヒットにより、数多くの賞を受賞し、一躍ミリオンセラー歌手となる。

毎年年末のNHK紅白歌合戦では、1971年「よこはま・たそがれ」で出場以来、連続34回出場。また2004年3月には、自身の構成演出による日生劇場ライブコンサートが評価され、文化庁より第54回芸術選奨文部科学大臣賞（大衆芸能部門）を受賞。

## 指揮 ボブ佐久間 (ぼぶ さくま)



わずか19歳で東京交響楽団第1ヴァイオリン奏者となり、21歳でジャズ・ピアニストに、23歳で作曲家としてデビュー後、数多くのTVドラマ・音楽番組を手掛ける。1977年よりハリウッド在任。1985年に帰国後は、壮大かつ多彩な作・編曲力を武器に、国内はもとよりフランス映画まで幅広く無数のサウンドトラックを手掛け好評を得ている。

1995年より名フィル・ポップスオーケストラのミュージック・ディレクターに就任し、国内主要オーケストラをはじめ、スーパー・ワールドオーケストラなどからゲスト・コンダクターとして招かれるなど、活動の場をより広げている。クラシックからジャズ～ポップス～ミュージカル～演歌～アイドル～と幅広いジャンルの音楽を担当し、より多くの人々にもっと気軽にオーケストラを楽しんでもらうことをライフワークにしている。



### 指揮 吉川 朗 (よしかわ あきら)

愛知県教育大学音楽科（ピアノ）卒業。同大学院（作曲）修了。

1990年より名古屋芸術大学、名古屋オペラ協会、愛知県文化振興事業団、名古屋市文化振興事業団、名古屋二期会などにおいて、40本以上のオペラ、オペレッタ、ミュージカルに携わる。

1991年「紫のドレス」でのオペラ・デビュー以来、「ヘンデルとグレートル」「唐人お吉」「のはらひめ」などを指揮。

ヴォーカル・パフォーマンス・ユニット・パセリ（春日井）の音楽ディレクター。ピュア・スカーラ（小牧）、アンサンブル風雅（名古屋）、豊明ひまわりコーラス、小牧混声合唱団の指揮。

「第九」の指導は、1987年の半田第九に始まり、ナゴヤシティ管弦楽団（現セントラル交響楽団）、一宮第九を歌う会、春日井第九合唱団、愛環音楽連盟、小牧第九など。

名古屋芸術大学音楽学部オペラ研究室実技補助員、大垣女子短期大学非常勤講師を経て、現在NHKナゴヤ・ニューサウンズ・オーケストラ常任指揮。NHKラジオ第一「ひるの散歩道」に出演。



### 指揮 アレキサンダー・ドゥルチャー

Alexander Drcar, Conductor

今、ヨーロッパのオペラやコンサートでもっとも活躍中の実力派ベテラン指揮者。1966年ミュンヘン生まれ。1992年にウィーン音楽大学の大学院で指揮のディプロマ（資格証明）を取り、オーストリア教育省から名誉賞を受けた。大学では、指揮をカール・エスターライヒャーに、作曲をトーマス・クリスティアン・ダヴィットに、コンサート・ピアノをノエル・フローレスに学んだ。ハラルド・ゲッツの下でオペラ指導者（コレペティトゥーア）としての研鑽を積む。1995年以来、クラーゲンフルト（オーストリアのケルンテン州の首都）の準音楽監督をはじめとして、ハンブルクやマイニンゲンやミュンヘンやバルセロナの歌劇場を中心に、モーツァルト（《フィガロの結婚》・《コシ・ファン・トッテ》）からベルク（《ルル》）まで、幅広いレパートリーを高度の演奏で聴かせて、劇場の内外で多くのファンを集めている。1997年以来、春日井市の「第九演奏会」の指揮者として数度来日。愛環音楽連盟との関係も深く、「歌劇《こうもり》：オルロフスキー邸へようこそ」（1999年）や「千人の第九」（2000年）でも指揮を務めた。2005年2月にも来日して、愛知芸術文化センタープロデュース「プレ愛知万博：青髭城の扉」を指揮して絶賛を得た。



### ソプラノ アンドレア・ラング

Andrea Lang, Soprano

今、ヨーロッパでもっとも活躍中の若いソプラノ。ドイツ、シュヴァーベン地方の生まれ。父も母も音楽家で、幼いときから児童合唱で歌う。16才の時に抜擢されて《フィガロの結婚》のバルバリーナを歌った。ベルリンの音楽学校で学び、シュトゥットガルトの国際バッハ・アカデミーではヘルムート・リリングの指導を受け、数々の賞を受賞。ベルリン・フィルのバッハの「クリスマス・オラトリオ」でコンサート歌手としてデビュー。オペラでは《ドン・パスクアーレ》のノリーナや《薔薇の騎士》のゾフィー、《後宮からの誘拐》などの主役を歌う。2003年に来日して、《フィガロの結婚》のスザンナで絶賛を博した。



### アルト ミカエラ・メーリンク

Michaela Mehring, Alto

ケルン生まれ。今回、初来日。ドイツ・デトモルトの国立音楽院でエリザベート・ラッハマン女史から声楽を学び卒業。1990年から92年までミュンヘンのバイエルン国立歌劇場のオペラ研修所の会員となって大舞台で本格的なプリマ歌手として活躍。1992年からクレフェルト・メッヘングラードバッハ劇場の専属アルト歌手となる。1999年と2000年の2回にわたってメッヘングラードバッハ市の「最高歌手劇場賞」を獲得。2001年からカッセルの歌劇場の専属歌手となり、2003年4月にはヒルデスハイム歌劇場のリヒャルト・シュトラウスの歌劇《ナクソスのアリアドネ》に出演。



**テノール ステファン・ハイバッハ**  
Stefan Heibach, Tenor

ドイツ生まれの若いテノール。今回、初来日。ベルリンのアイスラー音楽院でスコット・ヴァイルとライナー・ゴルドベルクの両師に学ぶ。2002年までユリア・ヴァルディのマスタークラスに参加。リヒャルト・ワーグナー協会から奨学金を受けて、2005年5月に優秀マスター賞を得て卒業。2004年から、ベルリン・コミッシュ・オパーの専属歌手として活躍中。これまでに、多くのオペラやオペレッタに出演。ベルリオーズの《ベアトリーチェとベネディクト》でベネディクトを、モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》でドン・オッターヴィオを、《魔笛》でタミーノを、ウエーバーの《魔弾の射手》でマックスを、リヒャルト・シュトラウスの《ナクソスのアリアドネ》ではバッカスを歌う。そのほかにも、ヨーロッパ各地で、歌曲のリサイタルやコンサートに出演。



**バス アンドレアス・ヤンコヴィッチ**  
Andreas Jankowitsch, Bariton

1971年ウィーン生まれ。ウィーン少年合唱団でボーイソプラノを歌う。ウィーン音楽大学で作曲とオルガンを学び、声楽はフルタ・ベリーに付く。1996年に《ドン・ジョヴァンニ》のレポレロ役などでオペラ・デビュー。1998年にエディタ・グルベローバとロッシーニの《セミラーミデ》のニーノの役で共演。バッハの「マタイ受難曲」やヘンデルの「メサイア」ではバスのソロを歌い、《フィガロの結婚》のフィガロやバルトロを歌う。ウィーンを中心に、多くの現代オペラの主役やコンサートのソリストとしても活躍中。2003年来日、《フィガロの結婚》の伯爵を歌って好評を博す。

## **全体構成・台本 新井鷗子（あらい おうこ）**

音楽構成作家。東京生まれ。東京芸術大学作曲家・楽理科の両学部を卒業。

1988年アジア青年作曲賞国内2位。コンサートの構成・脚本・編曲、テレビやラジオの音楽番組の構成・編曲を手がける。98年NHK教育番組「わがままオーケストラ」の構成でアメリカの国際エミー賞に入選。

これまでに東京芸術大学、早稲田大学文学部で非常勤講師を務める。著書に、エッセー集「Aが響く前に」（日本テレビ刊）、詩集「扉」（芸林書房）がある。

- 日本クラシック音楽事業協会「クラシックはいかが？」、読売日響「名曲シリーズ」、みなとみらいホール「こどもの日コンサート」、東京フィル「ニューイヤーコンサート」、新日本フィル「音楽宅急便」、NHK教育「トゥットゥおはなしコンサート」等の構成をレギュラーで担当。
- オペラの字幕制作、歌曲の訳詞、CDプロデュース（ピアニスト羽田健太郎、ダンサー熊川哲也、ソプラノ鈴木慶江など）、音楽雑誌等でコラム連載、TVドラマの音楽監修、若手演奏家のコンサート・プロデュース等々を手がける。
- 「カルメン」「パール・ギュント」「真夏の夜の夢」「兵士の物語」等の音楽物語の脚本も数多く手がけ、江守徹、西村雅彦、林隆三、宮崎淑子、藤村俊二、うじきつよし、辰巳琢郎、西岡徳馬などのナレーションによって上演している。
- 構成・音楽監修を手がける主な番組コンサートは
  - NHK 「ニューイヤー・オペラ・コンサート」、「あさのバロック」、「クラシックはいかが？」、「おはなしのくに」
  - テレビ朝日「題名のない音楽会21」、「ピアノはじめて物語」
  - 日本テレビ「深夜の音楽会」（読響オーケストラハウス）、「ブラボー！クラシック」、「ショパン・コンクール・ドキュメント」
  - フジテレビ「マエストロ」、「それが答えだ！」
  - TBS 「葉加瀬太郎のフランス音楽紀行」
  - テレビ東京「東急ジルバスター・コンサート」、「おとバラ」、「クラシカル・エヴァー・コンサート」、「芸術に恋して！」
  - ギンザめざましクラシックス
  - 熊川哲也&東儀秀樹&佐野成宏「華麗な男の企み」
  - オーチャードホール10周年ガラ・コンサート 等々、多数。
- 出演の仕事としてはこれまでに、NHK-FM「クラシック・リクエスト」「ベスト・オブ・クラシック」の司会、NHKハイビジョン「ワーグナーの＜ニーベルングの指輪＞徹底解剖」の音楽解説者、CS放送「クラシカ・ジャパン」の司会等を担当。